

## 琉球舞踊家オーラル・ヒストリーと創作手法： 志田房子 80 年の足跡

波照間永子（明治大学）

### 【目的】

琉球舞踊は、2009 年、国指定重要無形文化財として総合認定を受け、我が国を代表する舞踊に位置づけられている。今では国内外で盛んに上演され、その華やかさに触れる機会も多々あるが、ここに至る道程は決して平坦ではなかった。筆者は、2007 年より「琉球舞踊家オーラル・ヒストリー研究プロジェクト」を立ち上げ、沖縄戦前後の激動期を生きた舞踊家らを対象に「師からいかに“わざ”を受け継ぎ、今に伝えているか」を聴取してきた（波照間 2012, 2016, 2019 他）。本発表では、同プロジェクトの主たるインフォーマントの一人である志田房子（旧姓 根路銘）に焦点をあて、そのオーラル・ヒストリーに基づき、作品の内容と創作手法を分析する。それにより琉球舞踊に通底する創作手法と房子独自の手法を明らかにしたい。

### 【対象：志田房子の略歴】

房子は、1937（昭和 12）年、那覇に生まれた。3 歳より近代の名優、玉城盛重に師事した。沖縄戦で師亡き後、舞踊だけでなく音楽・芝居・組踊等、多様な領域の師から教えを受けた。9 歳の時「沖縄民政府文化部芸術課主催 芸能審査会」（1947 年）にて資格証明書を取得したのを機にプロの舞踊家としての道を歩み始め、同時期に初の創作舞踊を発表した。18 歳で根路銘房子舞踊研究所を開設し弟子の育成に着手、結婚後は東京に居を移すも琉球舞踊を国内外に発信する活動を継続し、2020 年、芸歴 80 周年を迎える。

その足跡は、沖縄タイムス社芸術選賞大賞受賞（1985 年）、文化庁芸術選奨文部大臣賞受賞（1992 年）、沖縄県文化功労者表彰（2004 年）、国指定重要無形文化財「琉球舞踊」<総合認定>保持者（2009 年）、文化庁長官表彰（2019 年）、沖縄タイムス賞受賞（2019 年）他に結実している。

### 【方法】

房子の 135 の作品リストを基に、芸歴書、公演パンフレット、記録映像、新聞記事等のデータを統合し、作品の主題および構成要素の聞き取り調査を実施した。作品を 5 要素——①曲（節）、②歌詞（琉歌）、③振付、④衣裳、⑤小道具——に分析し、これらの要素を吟味するとともに、要素間の組み合わせを精査し、創作手法の特性を抽出した。

### 【結果および考察】

本発表では、房子の 80 年の足跡を表象するも

のとして、2020 年 12 月 4 日（金）、国立劇場おきなわ大劇場にて開催する芸歴 80 周年記念公演「志田房子の会 ― 舞ひとすじ ―」で上演する作品を例に結果の一部を報告する。

### 1. 80 周年公演の構成にみる作品主題の類型

同公演は古典音楽斉唱で幕開けした後、全 9 作品で構成される。主題は次の 5 つに分類できる。①琉球王国期に確立した古典舞踊を基調に、新たな着想を加えた《穂花》、②近代期の庶民の風俗を描いた玉城盛重師作とされる作品《浜千鳥》《金細工》、③故郷の懐かしい生活文化（服飾[衣裳]や着付け、小道具、庶民の働く姿[身体技法]）を残したいと創作した《あかゆら》《ゆがふ(世界報)》、④世代を超え未来へ繋ぐ祝福、希望、平和の祈りをこめた《御代の春》《御嘉利吉》、⑤その他 2 作品\*、である。近世・近代・現代・未来という時間軸に添い作品が構成されている。先達から継いだ琉球・沖縄に育まれた「身体記憶」と、それを次代に伝えんとする意図が表象されている。

### 2. 琉球舞踊の創作に通底する手法と房子の手法

琉球舞踊の創作は、既存の古典音楽や民謡を選曲し、その曲に歌詞を付け、振り付けるのが通例である。歌詞は既に伝承されている琉歌を用いる場合と、新たに作詞する場合がある。このような琉球舞踊に通底する創作手法を踏まえつつも、房子の作品には次のような特性がみられる。①旋律の魅力に触発され選曲し、それに自ら歌詞（琉歌）を詠み作舞する作品が多い。②それらは二曲形式および三曲形式といった複数の曲で構成され、自身が作曲した旋律、もしくは作詞・作曲した曲を挿入することで独自性を創出し表現の幅を広げている。また、③過去に発表した作品に新たな曲を加え改訂し、現代の観客に向け、主題をより明確に示す作品に蘇生させている。

本研究が、琉球および日本の伝統舞踊における創作手法を探る一助になれば幸いである。当日の発表では具体的な作品映像の配信とともに結果を提示する。（科研費 20H01221 による）

注）\* その他 2 作品は、機を改めて報告する。

### 【文献】

波照間永子

2012「琉球文化の育む身体世界 ― 志田房子のオーラル・ヒストリー ―」瀬戸邦弘・杉山千鶴・波照間永子他著『日本人のからだ再考』明和出版：59-67

2016「琉球舞踊における『女芸』の成立と展開」沖縄県教育庁文化財課史料編集班編『沖縄県史 各論編8 女性史』沖縄県教育庁文化財課：190-208

2019「志田房子作 琉球舞踊《鎮魂の詞》の表象 ― 空間・音・身体の重層性 ―」『比較舞踊研究』第 25 巻：13-22